

## ごあいさつ

### 国際看護研究会第13回学術集会開催にあたって

国際看護研究会第13回学術集会  
会長 宮越幸代(長野県看護大学)

とりわけ厳しいこの夏の残暑の中、本日は当学術集会にお越しくださいまして、誠にありがとうございます。

1996年に発足し、国際看護に関心を持つ学生、実践者、教育者、研究者間の学術的な交流をめざしてきた「国際看護研究会」は今年度で15年目を迎え、1998年より開催されてきた学術集会は、本年で13回目を迎えました。

看護基礎教育カリキュラムに「国際看護」が位置づけられ、各教育機関では「国際看護」をどのような内容でどのように教育するかが模索されています。地域では、総務省が推進する「多文化共生社会」における看護の役割に関心が高まりつつあり、臨地ではこの春に国家試験に合格した3名の外国人看護師との協働が既に始まっています。このように、看護には国内外を問わず国際的な視点で実践できることが必須となり、今後はそのような実践から新たな知見を積み上げることが国際看護を学術的に発展させていく上で、大変重要であると考えます。

そこで、本学術集会のメインテーマは、「国際看護の研究に取り組む！実践に活かす！」とし、国や地域を超えた国際看護の実践を研究としてまとめ、さらにその結果を臨地での実践に活かすための方策を、具体的に皆様と共有できる機会にしたいと存じます。

このメインテーマをもとにした2つのワークショップは、「国際看護研究の実際、そして実践に活かすには？」(ワークショップ1)、「国際看護の経験を活かして、世界で働く！」(ワークショップ2)というテーマで企画いたしました。「ワークショップ1」では、国際看護研究を遂行するとき遭遇する様々な課題への対処について、看護研究に関する経験豊富なスピーカーからお話を伺った後、参加者からの疑問にもお答えいただく形で、国際看護研究の具体的な方法や、得られた研究成果を臨地での実践や教育に活かす方法を検討できればと存じます。「ワークショップ2」では、海外での国際看護活動経験を存分に活かし、日本でそして世界でエネルギーに働くスピーカーをお迎えし、それぞれの国際看護に関わる活動についてご紹介いただきながら、現在の活動やお仕事に結びつけたきっかけ、そこに行きつくまでの具体的なプロセスをお話させていただきます。国内外での国際看護の経験を積み重ね、その経験を元にさらにスキルアップされるなど、世界を舞台に国際看護に継続的に関わっていく方法や、その心構え、課題など多面的な方向からご提案をいただける機会にしたいと存じます。

会員の皆さまからの一般演題には、国内外の臨地や教育に関する多くの演題が寄せられ、このたびは「国際看護教育と現地教育」「外国人看護師と在日外国人」「母子保健」という3つの群分けを行いました。発表者との対話ができる、と好評のポスター発表にも9題を設けさせていただきました。学術集会の終わりには、参加者がより気軽に交流いただける茶話会も企画し、参加者の皆さまにとって有意義な機会となりますよう、実行委員一同が心より皆様をお迎え申し上げます。

ここ数年の国際看護・保健医療関連のセミナーや講演会、各種催しでは、学生の皆さんによる積極的な発言や企画力が発揮されている場面に、たびたび出会うようになりました。例年、この学術集会の運営においても、学生ボランティアの皆さんが重要な役割を果たして下さいますが、今年も定員を超える申し込みがあり、このような国際看護に関心を高める若い皆さんの期待に応えられる場にしたと準備委員および実行委員が、昨年より地道な準備を進めて参りました。また、本学術集会開催にあたりましては、「独立行政法人国際協力機構」によるゲストスピーカーの方々のご紹介をいただき、さらにこのたびも「JICA 地球ひろば」のご協賛を賜ることができ、この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。また、学術集会運営にご理解をいただき、ご寄付をお寄せ下さいました皆様にも御礼申し上げます。最後になりましたが、本日は準備委員、査読委員、実行委員の皆様による公私を超えたご尽力をいただきながら、開催の日を迎えることができました。ここに御礼申し上げます。

2010年9月4日

## ＜会場別進行一覧表＞

時間	第1会場 ＜講堂＞	第2会場 ＜セミナールーム 301＞
10:00～10:30	受付	10:00～ ポスター掲示開始 *11:30 ポスター掲示完了
10:30～10:35	オリエンテーション	
10:35～10:40	開会のあいさつ	
10:40～11:20	基調講演 「国際看護の研究に取り組む！実践 に活かす！」	
11:30～12:15	一般演題(口演) 第1群「国際看護教育と現地教育」	一般演題(口演) 第2群「外国人看護師と在日外国人」
12:15～13:20	12:25～12:55 国際看護研究会 総会  *昼食・休憩	*昼食・休憩
13:20～14:50	*13:50 開始 一般演題(口演) 第3群「母子保健」	ワークショップ1 「国際看護研究の実際、そして実践に活 かすには？」
15:10～16:40	ワークショップ2 「国際看護の経験を活かして、世界 で働く！」	一般演題(ポスター発表)
16:45～17:25	閉会のあいさつ・茶話会	ポスター撤去

\*昼食・休憩は各会場と4階多目的ルームでとることができます。

## <プログラム>

### 【第1会場 3階講堂】

10:30-10:35 オリエンテーション

10:35-10:40 開会のあいさつ

10:40-11:20	<b>基調講演</b>	<b>座長：森 淑江 (群馬大学)</b>
-------------	-------------	-----------------------

国際看護の研究に取り組む！実践に活かす！

第13回学術集会長 宮越幸代 (長野県看護大学)

11:30-12:15	<b>一般演題 (口演) 第1群「国際看護教育と現地教育」</b>	<b>座長：河原 宣子 (京都橘大学)</b>
-------------	-----------------------------------	-------------------------

0-1 チェンマイ大学海外研修を含む国際看護論実践報告  
山名香奈美 (奈良県立医科大学)

0-2 サモア国立大学留学生を迎えての国際看護実習 2009  
—学生の視点で考えた実習の成果—  
菊池郁希 (虎ノ門病院)

0-3 カンボジアにおける医療場面での衛生環境の整備と看護師への感染対策の啓発活動  
石原恵 (特定非営利法人 世界の医療団日本)

12:15-13:50 昼食・休憩

12:25-12:55 **平成22年度 国際看護研究会総会 (会員参加)**

13 : 50—14 : 50

一般演題（口演） 第3群「母子保健」

座長：山田 智恵里（株式会社エタニティ）

- 0-7 在日ペルー人女性の育児期に希望するサポート  
金川真理（神戸大学大学院）
- 0-8 マダガスカルにおける妊婦のマラリアに対する認識と対処行動  
春日広美（長野県看護大学大学院博士前期課程）
- 0-9 バングラディッシュ農村部における分娩資金準備のための貯金壺の利用状況  
岩崎三佳（神戸大学大学院保健学研究科）
- 0-10 フィリピンの母子保健行動に関する聞き取り調査  
堤亜都美（社会福祉法人福祉事業団 四天王寺病院）

15 : 10—16 : 40

ワークショップ2 「国際看護の経験を活かして、世界で働く！」

ファシリテータ：大野 夏代（札幌市立大学）

【スピーカー】

- 国際看護経験の回想  
近藤麻理（東邦大学）
- 国際協力を目指す看護職の皆さんへ  
遠藤亜貴子（元青年海外協力隊・JICA 技術協力専門家）
- グローバル時代の看護を担う人材を育てる  
橋本秀実（三重県立看護大学）

16 : 45—16 : 50 閉会のあいさつ

16 : 50—17 : 25 茶話会 \* どなたでもお気軽にご参加ください。

**【第2会場 3階セミナールーム301】**

**11:30-12:15 一般演題（口演） 第2群「外国人看護師と在日外国人」**  
**座長：李 節子（長崎県立大学大学院）**

- 0-4 外国人看護師の帰国と再移動  
戸崎幸子（群馬大学大学院）
- 0-5 サービス・ラーニングによるインドネシア人看護師候補者支援の試み  
影山葉子（静岡県立大学）
- 0-6 京都市に在住する留学生の健康と生活に関するニーズ調査―滞在期間での比較―  
上山晃太郎（京都橘大学）

12:15-13:20 昼食・休憩

**13:20-14:50 ワークショップ1 「国際看護研究の実際、そして実践に活かすには？」**  
**ファシリテータ：戸塚 規子（京都橘大学）**

**【スピーカー】**

- 母子保健サービスにおける医療従事者の質の向上と  
母子手帳を使用した災害ヘルスプロモーションの研究そして実践に活かすには  
芝山江美子（高崎健康福祉大学）
- 国際看護研究の実際、そして実践に活かすには？  
嶋澤恭子（神戸市看護大学）
- 在日外国人母子保健研究―25年の軌跡から  
李 節子（長崎県立大学大学院）

**15:10-16:40 一般演題（ポスター）**  
**座長：望月 経子（JICA カンボジア保健人材育成システム改善プロジェクト）〈P-1～5〉**  
**宮崎 みち子（札幌市立大学）〈P-6～9〉**

- P-1 インドネシア人看護師とともに働いていくために―インドネシアの看護教育からの検討―  
竹野ゆかり（中部大学）
- P-1 フィリピンにおける健康管理活動  
―集団健診を選択した村と巡回診療を選択した村の比較―  
中田りつ子（活水女子大学）
- P-3 国際看護学国内教育の取り組みと学生の学び  
岡本菜穂子（日本赤十字看護大学）

- P-4 スタディツアー（フィジー）による国際看護観の変化  
横山桂子（札幌市保健福祉部）
- P-5 JICA 青年研修にて研修員が「成果」として捉えたもの  
大野夏代（札幌市立大学）
- P-6 JICA 草の根技術協力事業を通じたサモア国立大学への支援  
御子柴裕子（長野県看護大学）
- P-7 サモア南方沖地震による津波被災後の現状と復興に関する考察  
宮越幸代（長野県看護大学）
- P-8 北欧諸国の病院における手指衛生教育の取り組み  
森本美智子（兵庫県立大学）
- P-9 日系クリニックにおける海外在留邦人からの相談内容  
青柳香苗（元ロータスクリニック）